

末長く活動するために

会員 梅田 弘文

1 はじめに

ご縁があって、76期リレーエッセイ執筆の機会をいただきました。過去の記事を遡って読むほどにLIBRAを愛読しているので、大変光栄に思っています（特に好きな記事は、「東弁今昔物語～150周年を目指して～」や「ある法律事務所職員の体験から」です）。

早いもので、弁護士になって半年以上が経過しました。事務所では、本当に多種多様な事件を担当させていただいています。また、会派では、日常業務とは異なった貴重な経験をさせていただいています。おかげさまで、新鮮で充実した毎日を過ごしています。

一方で、当然ながら、悩んだり苦労したりすることも多いです。そこで、弁護士として末長く活動するために、以下の点に留意するようにしています。

2 素直に質問する

新人弁護士は、初めて経験することが多く、経験を基に処理できることが少ないです。もちろん、分からないことは自分で懸命に調べるわけですが、調べてもなかなか見通しが立たないということもあります。相談すべきタイミングは、ものによって異なるでしょうが、いずれかのタイミングで、素直に教を乞うことが大切のように思われます。事件と離れた仕事のやり方についても、経験豊富な先輩弁護士を参考にすべき点が多いので、そのまま真似したりしています。

事務所内では、所長弁護士をはじめ弁護士や事務局の皆様、事務所外では、当会の研修担当の先輩弁護士の助言を受けながら、日々の業務に励んでいます。

3 悩みは共有する

日々の業務の中では、悩み事が自然と浮かんでき

ます。その内容は様々ですが、重たい悩みほど早めに共有するようにしています。

悩みは打ち明けるだけでも楽になりますし、多くの場合、親身になったアドバイスをいただけます。特に、ベテランの先輩方の経験談に基づいたアドバイスは、本当に貴重です。一人で悩んでいても、なかなか気付いてもらえないので、自分から相談することがポイントのように思われます。

私の場合、事務所内はもちろん、会派の先輩や司法研修所でお世話になった元教官である方々をはじめとした皆様に悩みを聞いていただいています。

4 休養をサボらない

食事や睡眠はもちろんですが、趣味や運動を通じた休養もおろそかにしないようにしています。

私は、ヤクルトファンなので、神宮球場に頻繁に通っています。神宮のスタンドで夜風に打たれながらビールを飲んでみると、幸せな気持ちになれます。また、無心になれるので、ランニングも習慣にしています。夏の間はサボりがちですが、フルマラソン4時間切りを達成するために、秋からは走り込むつもりです。

5 結びに

さて、ここまで留意していることをまとめてきましたが、末長く活動する中で、基本的人権を尊重し、社会正義を実現することを使命とする弁護士として、在野法曹に課せられた責務を果たしていきたいと思っています。

皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りたく宜しくお願い申し上げます。